

# 三条・一ノ木戸歴史散歩 人物編

(27)

## 江戸・明治の栄華を訪ねて



三条・一ノ木戸歴史散歩 人物編  
—江戸・明治の栄華を訪ねて—

る。三条に帰った玄雪を聞いて多数の子弟を  
は、義父淳庵の医業を 教えたが、淳庵没後は  
助けるかたわら、家塾 塾を閉じ、医業に専念

した。玄雪は明治三年  
(一八七〇) 六十六歳  
で没した。  
この二代目玄雪の後  
を継いだのが、六男の  
三代目玄雪(佐藤家八  
代目)である。三代目  
玄雪もかなりの傑物と  
伝えられている。明治  
二十五年(一八九二)  
から二年間、第二代目  
三条町長を務めた。  
佐藤家の門には「吾  
が家の医業は売物にあ  
らず誠をもて請うれば  
必ず与つ」という看板  
がかかっていた。この  
り、貧しい者には惜し  
げもなく薬を与える一  
なるものであるが、医  
方、金持ちからも余計  
な薬代をとることもな  
は仁術を実践する佐藤  
家の歴代の誠意が知れ  
かたたと伝えられる。  
る言葉である。  
看板の言葉のとお

★参考文献『南蒲原先賢傳』『三条市医師会五十年史』

## その他の有名人

佐藤家は江戸時代か  
ら明治にかけて九代続  
いた医者の家系。佐藤  
家七代目は、二代目玄  
雪(名は與、小雪とも  
号した)。二代目玄雪  
は文化二年(一八〇五)  
三条大町(現本町二丁  
目)に生まれる。父の  
玄鶴が早くに亡くなっ  
たため、祖父の玄厚に  
育てられる。祖父玄厚  
はその死に臨み、幼い

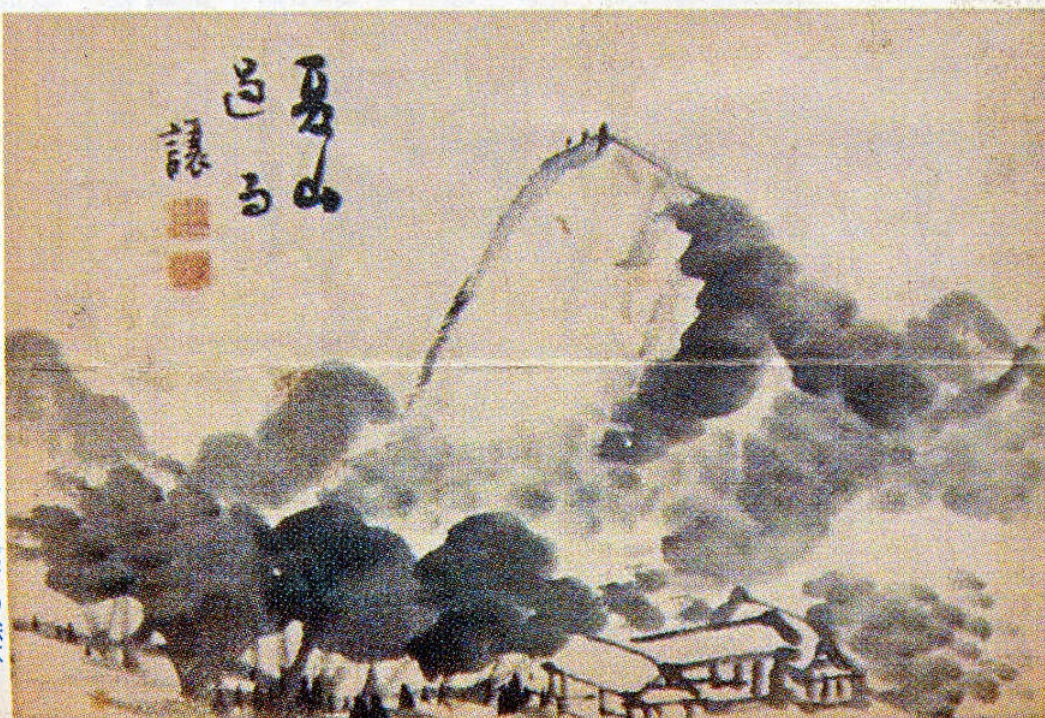
玄雪とその弟の寛齋の  
養育を弟子の(関川)  
淳庵に託す。淳庵は、  
佐藤姓を名乗り、二人  
の遺児を養育する。  
淳庵はもと関川定祥  
といひ、淳庵は通称。  
よくした。松坩号の山  
水画が残されている。  
慶応二年(一八六六)  
七十二歳で没した。

さて、祖父の門弟で  
あつた義父の淳庵に育  
てられた玄雪は、長じ  
て江戸で安積良齋、大  
阪で篠崎小竹に学ぶ。  
玄雪が学んだ師匠はい  
づれも儒学の師で、医  
術を学んだという痕跡  
がないのが不思議であ

## ②六 三条の赤ひげ 名医佐藤玄雪と一族



大町佐藤家の跡地。写真の左側に佐藤家が  
あつた。小路は佐藤小路と呼ばれる



佐藤淳庵作の山水画。小品である。淳庵(松坩)の絵は  
かなり残っている